

申し合わせ（案）

私たちは、平成23年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故を経験し、原子力に頼ることの危うさを身をもって知りました。

原発事故は、地震や津波の影響を受けたエネルギー・インフラの課題や、原子力発電所のリスクをこれまでにない形で明確にする結果をもたらし、日本のエネルギーのあり方の見直しの必要性をより強めることになりました。

また、近年は化石燃料による地球温暖化も問題となっており、11月4日には京都議定書に代わる地球温暖化対策の新たな国際枠組みである「パリ協定」が発効され、歴史的な国際合意に基づき、化石燃料に依存しない脱炭素社会の実現を目指す取り組みが始動します。

パリ協定の発効が、再生可能エネルギーへの転換の流れを、更に速く強力なものにしていくことは間違いありません。

化石燃料にも原子力にも依存せず、経済を発展させ豊かで安全な社会を実現するエネルギー源を利用していくことが求められています。

わが国も、化石燃料と原子力依存から一刻も早く決別し、再生可能エネルギーを中心とする社会へ転換する方向に向かう必要があります。

私たちは、今回のシンポジウムを通じ、環境に優しい安全で持続可能な再生可能エネルギーの導入の必要性を改めて認識しました。

地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会は、県内産の資源を活かしたバイオマスの利活用など、各関係機関・団体と連携をはかりながら再生可能エネルギーの可能性をさらに追求していくことを申し合わせます。

平成28年12月1日

絆で創生！ふくしまSTYLE シンポジウム 参加者一同